

杉野川漁場の水温モニタリング調査

吉岡 剛

1. 目的

県内の河川漁場では、釣りの漁業権魚種として、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユを設定している事例が多い。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、杉野川漁協の漁場について、夏期の水温モニタリング調査を実施した。

2. 方法

令和4年5月20日に、杉野川漁協漁場の本流上流・支流・本流下流の3地点にデータロガー（ONSET社製HOBO Pendant Data Logger UA-002-64）を設置し、1時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、長浜市木之本町金居原の本流と支流が合流する地点の杉野川筋が本流上流、須亦川筋が支流、長浜市木之本町杉本の漁協事務所付近を本流下流とした（図1）。

ロガーは、令和4年6月20日、9月1日、9月12日、10月29日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した（図2、図3、図4）。

3. 結果

集中豪雨により、ロガーが流失したため、本流上流は夏期のデータが取れなかった。期間を通じての最高水温は、支流（24.4℃）本流下流（25.9℃）であった。支流の須亦川は、高水温期に25℃以下で推移しており、アマゴ放流に適していると考えられた。本流下流では、25℃を超える日が数日確認されており、アユの放流に適していると考えられた。



図1 データロガー設置場所

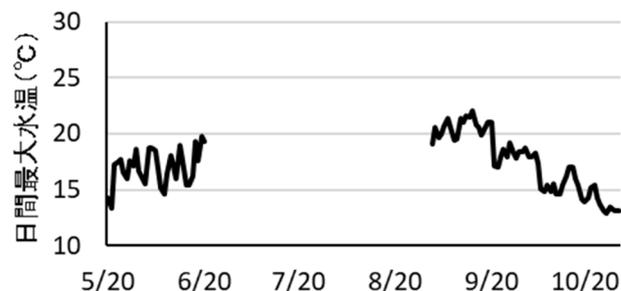


図2 本流上流の日間最高水温推移

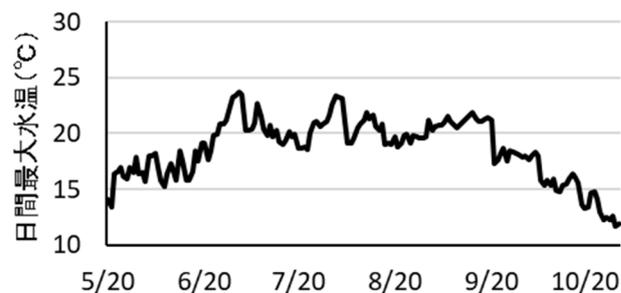


図3 支流の日間最高水温推移

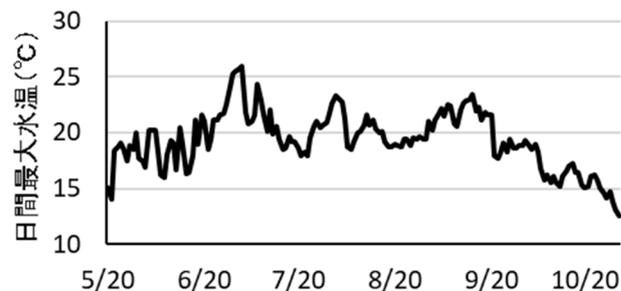


図4 本流下流の日間最高水温推移